

すませて帰る人が多かった』そうです。時代も昭和に入り昭和9年（1934）、児童の学力向上や予算軽減などの理由から、垂水町議会では協和・柘原・水之上の3小学校の高等科を垂水小学校に統合することを議決したところ、協和校区民は反対して児童を垂水小学校に登校させず、私設の高等科を独自に設置して授業を開始したので県下の大問題となったのでした。昭和11年（1936）、結局は町当局が折れて、協和私設高等科を垂水小学校の分教場と認めて解決しましたが、地区民の子弟教育の関心の高さがうかがわれる事件でした。昭和16年（1941）協和国民学校と改称し、12月8日には太平洋戦争が始まると学校もだんだんと戦時色を強めて行きました。野嶋福造さんは『男子は丸坊主で半ズボン、ポケットは寒くても手を入れないように縫い付けてあった。体操の時間は軍事教練に変わり、男子は木剣、女子は薙刀の訓練となり、登校など隊列を作って登校した。校門の左側に奉安殿があり天長節などの時は校長先生がモーニングに白手袋で御真影（天皇の写真）を頭上に捧げ』ていたことを記憶しておられます。戦後、昭和22年（1947）協和小学校と改称されるとともに、垂水中学校協和教場が併設されました。昭和24年（1949）4月、海潟造船所跡の木材を移転して中学校の校舎とし、協和中学校が独立したのです。昭和38年（1963）7月12日、3年生以上は海潟865番地の新校舎へ移転し、翌昭和39年（1964）3月、協和中学校と同時に小学校の全児童が新校舎へ移転を完了し、5月14日には小学校・中学校の盛大な落成式が行われました。そして昭和53年（1978）1月には小学校は創立100周年記念式典を挙行了したのでした。児童・生徒数は小学校が昭和34年の時、992名、中学校が昭和29年の時503名をピークに年々減少を続けています。

様々な環境の変化や桜島降灰の影響などから協和地区の人口は減少を続けており、



協和小学校正門



中学校閉校記念碑